

# 津松阪港港湾計画資料

— 軽易な変更 —

平成17年11月

津松阪港港湾管理者

## 目 次

変更理由	1
1. 旅客船ふ頭計画（追加）	2
2. 水域施設計画（変更）	3

## 変更理由

大口地区において、愛知県常滑市沖に開港した中部国際空港とのアクセス確保に対応するため旅客船ふ頭計画を追加し、水域施設計画を変更する。

## 1. 旅客船ふ頭計画（追加）

平成 17 年に開港した中部国際空港とのアクセス強化、都市間交流を促進するため、旅客船ふ頭を次のとおり計画する。

大口地区

小型さん橋      1 基（公共）

## 2. 水域施設計画（変更）

旅客船ふ頭計画に対応し、泊地を次のとおり変更する。

大口地区

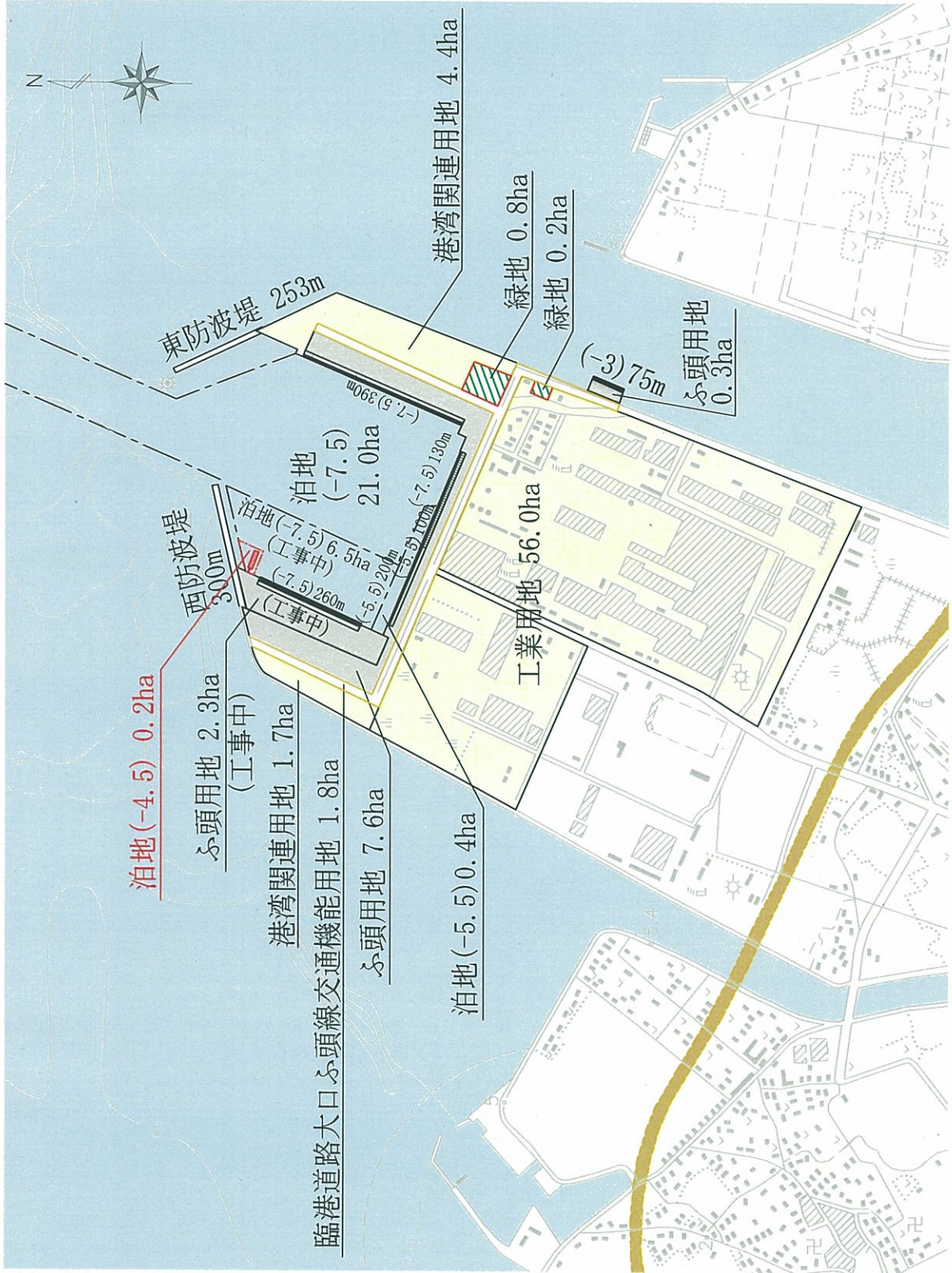
泊地 水深 4.5 m 面積 1 ha（既設）

泊地 水深 7.5 m 面積 6 ha

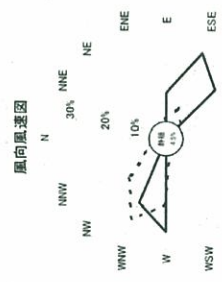
既定計画  
泊地 水深 7.5 m 面積 7 ha



# 津松阪港港湾計画図 (大口地区)



凡 例	
	航路・泊地 (既定計画) (既 設)
	防 波 堤 (既 設)
	公 共 岸 壁 (既 設)
	公共新強化岸壁 (既 設)
	小型さん橋 (今回計画)
	ふ 頭 用 地 (既 設)
	緑 地 (既定計画)
	交通機能用地 (臨港道路) (既 設)
	交通機能用地 (その他道路) (計 画)
	その他の用地 (既 設)



..... 風速0.5m/s以上の方位割合  
 —— 風速10m/s以上の方位割合  
 観測期間: 昭和57年1月~昭和61年12月  
 観測場所: 津地方気象台



## 目 次

1. 変更理由.....	1
2. 港湾施設の規模及び配置に関する資料.....	2
3. 環境保全に関する資料.....	6
4. 資金計画.....	7
5. 津松阪港港湾計画新旧対照図.....	8
6. その他.....	9

## 1. 変更理由

大口地区において、愛知県常滑市沖に開港した中部国際空港とのアクセス確保に対応するため旅客船ふ頭計画を追加し、水域施設計画を変更する。



## 2. 港湾施設の規模及び配置に関する資料

### 2.1 旅客船ふ頭計画（追加）

#### (1)概要

平成 17 年に開港した中部国際空港とのアクセス強化、都市間交流を促進するため、旅客船ふ頭計画を追加する。

#### (2)計画対象船舶

対象船舶の諸元は伊勢湾内で運行している船舶及び中部国際空港への海上アクセス事業計画などを考慮し表 2.1-1 に示すとおりとする。

表 2.1-1対象船舶の諸元

	船長	船幅	喫水
観光船	30.0	10.0	2.3
連絡船	23.0	5.5	1.8
アクセス船	32.0	8.56	2.35

(3) 静穏度の検討

a) 静穏度の目標

通常時、異常時における静穏度の目標は、表 2.1-2 に示すとおりである。

表 2.1-2 静穏度の目標

区分	係留施設前面波高	稼働率
通常時	0.3 m以下	97.5%
異常時	0.5 m以下	—

b) 通常時

通常時における係留施設前面での静穏度は、表 2.1-3 に示すとおりとなり、所要の静穏度を満足している。

表 2.1-3 通常時における静穏度

波向 地点	波高0.3 m以上の出現率 (%)									稼働率 (%)
	NNW	N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	計	
A	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	99.5

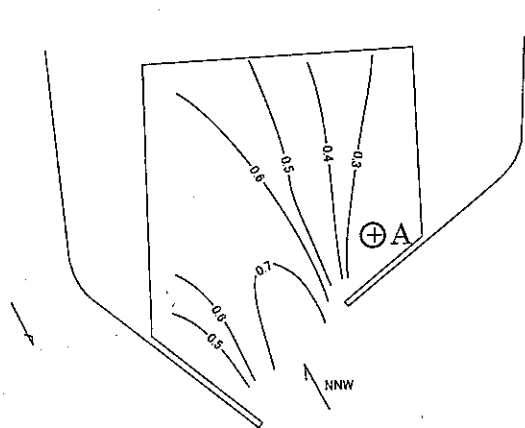
c) 異常時

異常時における計画地点の波浪については、等波高線図より波高を求めると表 2.1-4 のとおりとなり、所要の静穏度を満足している。

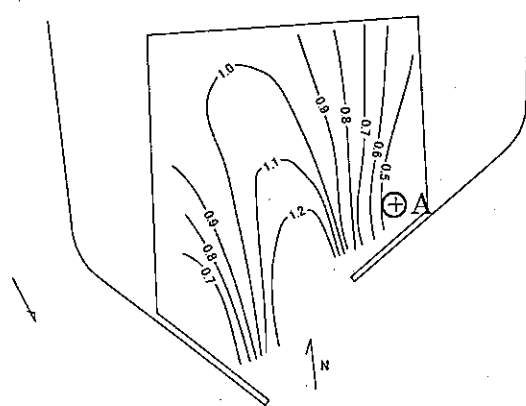
また、等波高線図を図 2.1-1 に示す。

表 2.1-4 異常時における波高

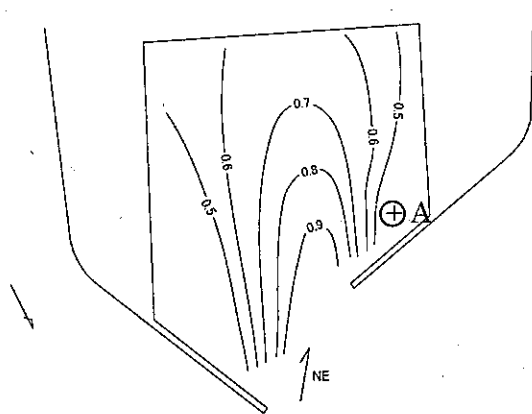
波向		NNW	N	NE	ENE
入射波高 (m)		0.80	1.55	1.29	2.14
周期 (s)		5.3	5.4	4.5	5.6
A	波高 (m)	0.21	0.47	0.44	0.17



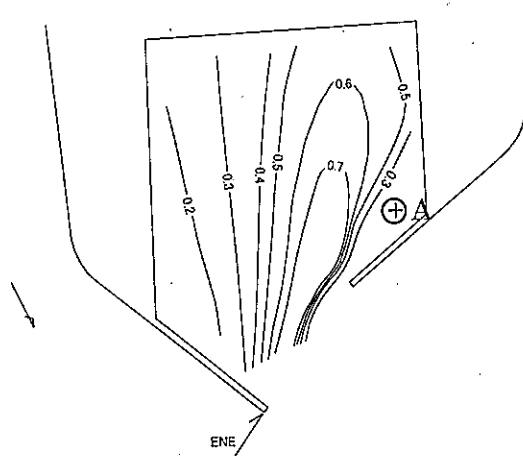
波向	NNW
波高	0.8m
周期	5.3sec



波向	N
波高	1.55m
周期	5.4sec



波向	NE
波高	1.29m
周期	4.5sec



波向	ENE
波高	2.14m
周期	5.6sec

图 2.1-1 等波高线图

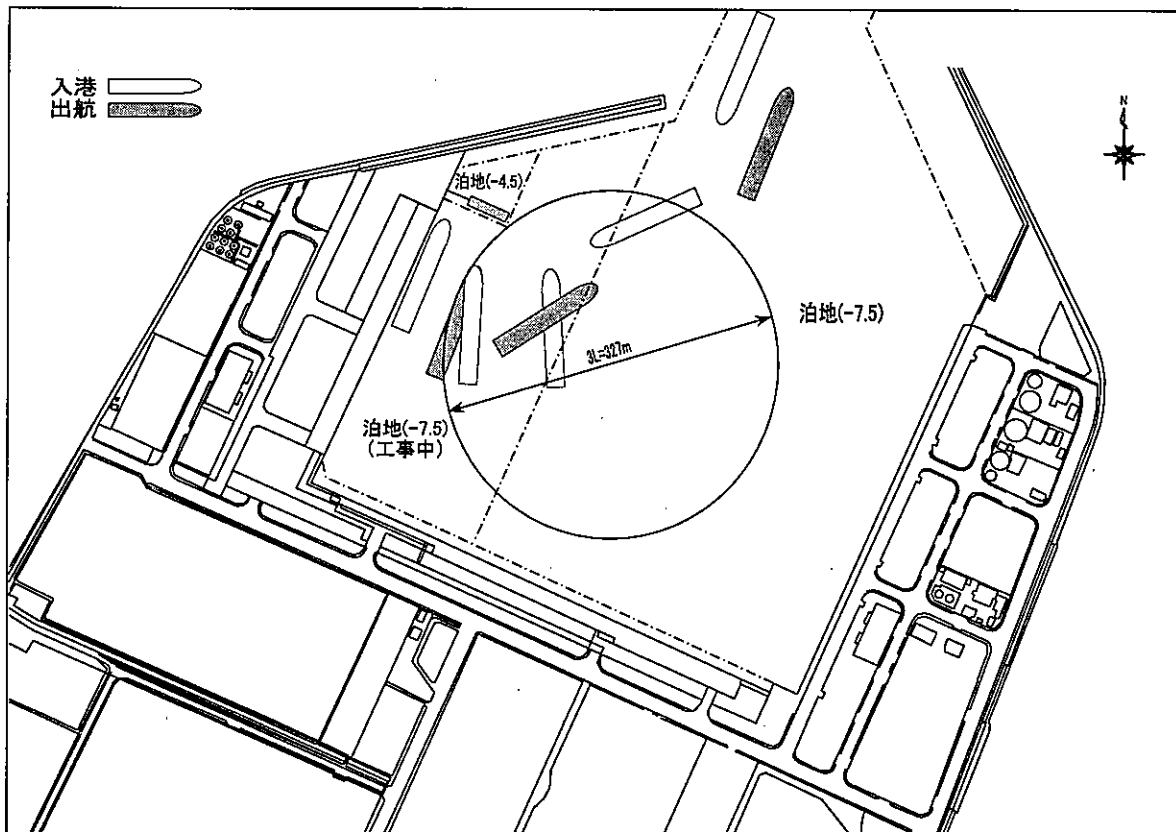
## 2.2 水域施設計画（変更）

旅客船ふ頭計画に対応し、泊地を次のとおり変更する。

大口地区

泊地 水深4.5m 面積 0.2ha（既設）

泊地 水深7.5m 面積 6.5ha





### 3. 環境保全に関する資料

#### 3.1 大気質への影響と評価

今回計画では、既定計画に比べ、港湾関連交通の大幅な増加は想定されないことから、今回計画が大気質に与える影響は軽微であると考えられる。

#### 3.2 潮流への影響と評価

今回計画は、旅客船係留のための小型さん橋の設置であることから、潮流に与える影響は軽微であると考えられる。

#### 3.3 水質、底質への影響と評価

今回計画による新たな負荷発生施設の計画はないことから、今回計画が水質、底質に与える影響は軽微であると考えられる。

#### 3.4 騒音・振動による影響と評価

今回計画では、既定計画に比べ、港湾関連交通の大幅な増加は想定されないことから、今回計画による騒音・振動の影響は軽微であると考えられる。

#### 3.5 生態系への影響と評価

今回計画による大気質、潮流、水質、底質に与える影響は軽微であることから、生態系に与える影響は軽微であると考えられる。

#### 3.6 総合評価

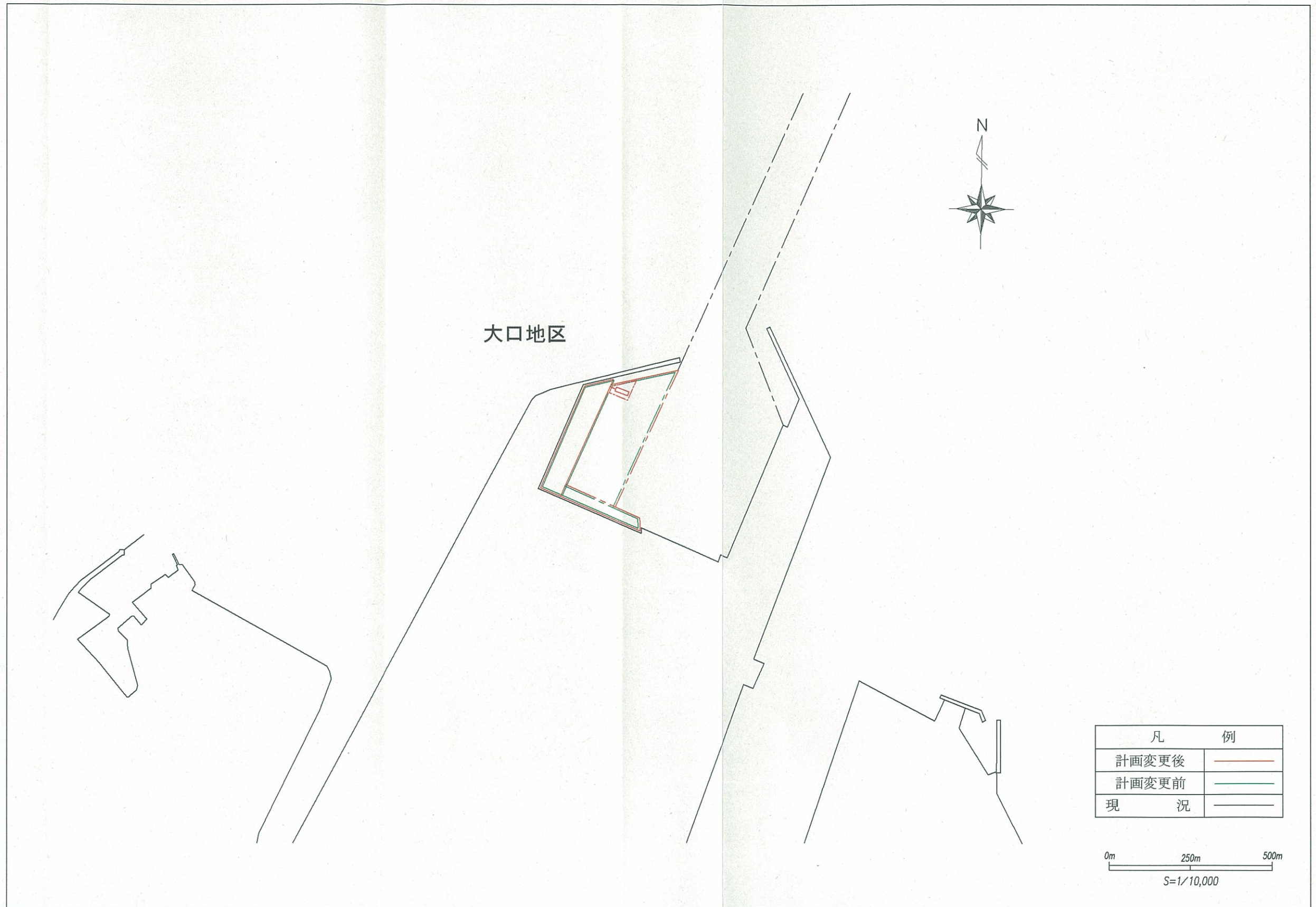
今回計画が、津松阪港周辺の環境に与える影響について検討した結果、その影響は軽微であると考えられる。

#### 4. 資金計画

地区	種別	施設区分	施設名	単位	数量	事業費 (百万円)	摘要
大口 地区	公共 事業	係留施設	小型さん橋	基	1	200	
		水域施設	泊地 (-7.5)	千m <sup>3</sup>	140	480	

注. 今回変更計画に係る部分のみ記載した。

5. 津松阪港港湾計画新旧対照図





## 6. その他

### 三重県港湾審議会委員名簿

平成17年11月現在（敬称略、順不同）

分野	役職名	氏名
学 識 経 験 者	(財)日本船舶職員養成協会会長 会長 前三重県商工会議所連合会 専務理事 日本大学理工学部総合科学研究所 教授 東海大学短期大学部 教授 三重大学人文学部 教授 四日市大学総合政策学部 教授 名城大学人間学部人間学科 助教授	坪井 宏 北川 利美 新井 洋一 東 惠子 朴 惠淑 谷岡 経津子 水尾 衣里
県議会	三重県議会 議長 三重県議会県土整備部企業常任委員会 副委員長	田中 覚 前野 和美
港 湾 関 係 者	日本トランスシティ（株）代表取締役社長 三重海運（株）代表取締役 社長 三重県漁業協同組合連合会 代表理事会長	小林 長久 西村 康 三谷 勝次
関 係 行 政 機 関	財務省名古屋税関長 国土交通省中部運輸局長 国土交通省中部地方整備局長 津市長 松阪市長 尾鷲市長	石野 耕也 谷山 將 大村 哲夫 近藤 康雄 下村 猛 伊藤 允久



三重県港湾審議会の答申

三 港 審 第 1 号

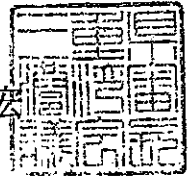
平成17年11月4日

津松阪港港湾管理者 三重県

代表者 三重県知事 野呂昭彦 様

三重県港湾審議会

会長 坪井 宏



津松阪港港湾計画の変更について（答申）

平成17年10月7日付け県土第11-1055号で付議のあったことについては、平成17年11月4日三重県港湾審議会で、原案どおり可決したので答申する。